

交易という「生き方」

—パプアニューギニア・ルイジアード群島における交易ネットワークの分析から—

門馬一平

社会システム研究科地域コミュニティ専攻

2012M30008

要旨

本稿は、パプアニューギニア・ミルンバイ州のルイジアード群島における、財貨の交易に関する論文である。ルイジアード群島の人々は、ニューギニア本島とは遠く離れた場所で、自給自足の生活を送りながらも、財貨の交易を絶え間なくおこなっている。この財貨は、葬儀や年忌法要、セーリングカヌー購入の際の支払いなどにおける贈与儀礼に用いられる。彼らは、この財貨を求めてセーリングカヌーで航海の旅に出る。特に、財貨の交易をより頻繁におこなう「ビッグマン」とよばれる人々は、40～100キロメートルほど離れた交易パートナーのいる場所へ行き、財貨を得る。そして、彼らが持ち帰った財貨を求めて近隣の人々が集まる。財貨はビッグマンによって人々に与えられ、多くの人にいきわたる。いきわたった財貨は、贈与儀礼において持ち寄られ、そして特定の人に贈与される。さらに、贈与された人を、多くの人々が訪れ、財貨を要求する。こうしてまた、財貨は拡散してしまう。この一連の流れを概観すると、ルイジアード群島では財貨を用いた複雑な交易ネットワークが形成されていることが指摘できる。本稿では、この交易ネットワークの実態を分析する。そして人々が交易ネットワークを使ってどのように財貨を集め、贈与儀礼を催すかに注目する。

ルイジアード群島においては、小さなカヌーでいくことのできる生活圏での交易「ヒーペ」と、セーリングカヌーやエンジンつきボートでいくことのできる航海圏における交易「ロブトゥ」という、ふたつのタイプの交易が存在する。

生活圏においては、人々の生活環境が同じであるため、一度人々に行き渡った財貨はそれ以上移動させる必要がない。しかし、贈与儀礼により財貨は集積し、偏在する。その偏在は、交易によって起こり、また財貨の偏在は交易をうみだす。財貨が集積と拡散を繰り返し、循環することで、生活圏ネットワークが構成されている。これは、人々が生活圏にもたらされた財貨を最大限活用しようとした結果といえる。財貨を滞留させるのではなく、交易ヒーペや贈与儀礼サガエに用いることによって、資源を共有し、協力関係を築いている。

航海圏における人々の関係は、主に航海圏の交易「ロブトゥ」によって築かれる。ロブトゥに来た人は、交易パートナーに対して財貨を要求し、相手との信頼関係を試す。それに対し交易パートナーはできるだけ要求に答えようとし、財貨を用意する。それぞれの交易

パートナーとの関係は、大きな贈与儀礼をおこなうことを競う「ライバル」でありながら、財貨の贈与を要求しあう「パートナー」でもある。

財貨のやり取りは交易パートナーとの 2 者間だけでなく、交易パートナーの生活圏における地縁や血縁関係も含めた、3 者間以上でやり取りされる。財貨の求めに対して交易パートナーは次の場所を示し、そこで財貨を得るように指示する。指示された人は、その場所へ赴くが、そこでもまた次の場所を紹介され、別の場所を訪ねるといったような状況がうまれる。このように、人々は予測不可能で状況依存的な移動をすることになる。そのため、航海圏ネットワークにおいては財貨のやり取りの発生は不定期である。時期や環境、贈与儀礼の発生などによって、財貨は不規則に移動し、偏在している。変化していく状況に対応しながら人々は移動し、交易するのである。

そして、このふたつの異なるネットワークや、それぞれの島の地域性を活用して、人々は交易をおこない、大規模な贈与儀礼をひらいている。また、それぞれの人々の交易ネットワークは、時間とともに蓄積している。それらの分析から、蓄積した交易ネットワークを最大限活用することで、ルイジアード群島全体のネットワークを活性化させ、大規模な財貨の集積をおこなっていることを明らかにした。

これらの交易によって、特産品の均等化や、相互扶助などといった効果が生まれることが考えられるが、交易にはビッグマンとよばれる人々を社会的に生み出す効果も確認できる。そこで、ビッグマンとよばれる人々がおこなう交易の背景にある、彼らの思惑を分析した。そこにおいては、さまざまな選択肢が彼らによって生み出されていた。そして、より多くの選択肢を生みだし、そのなかから最適な選択肢を導き出せる人が、ビッグマンとよばれるようになっていた。

しかし、ビッグマンとなることは、ルイジアード群島の人々の生き方のひとつである。ルイジアード群島の交易の構造のなかでは、他にもさまざまな生き方をする人々がみられる。また、地方や島ごとの生活の方法もさまざまである。交易をおこなうことも、彼らにとってはそれぞれの生き方のなかの、ひとつの選択肢にすぎない。しかし、この交易の存在は、人々にさらに多くの生き方を提供している。ルイジアード群島の人々は、交易においてさまざまな選択肢を生みだし、それが交易ネットワークを形づくり、人々の生き方に影響していく。こうして人々の選択そのものが生き方の多様性を生みだしている。

このような次々と生み出される多様性のなかで、人々は自分の生き方を表現しようとする。交易や贈与儀礼においても、人々は能力を最大限発揮し、自らの生き方を表現しようとしている。周囲の人々もそれを評価し、応援し、支援する。そして、それぞれが自らの生き方において自由に表現したものを組み合わせ、概観したものがルイジアード群島の交易ネットワークであると結論付けた。